

## 大久保長安墓所

1603年から1867年まで、日本を統治した徳川幕府の創始者として今では知られている武将の徳川家康（1543年～1616年）が、1600年に石見銀山の支配権を獲得した際、彼は銀山の監督に最も信頼できる部下の一人を任命しました。鉱業の熟練した管理者であり専門家として知られるこの大久保長安（1545年～1613年）の功績は、君主の期待以上のものでした。彼は、今では本人の名前を冠する大久保間歩など、銀の産出が豊富な坑道を複数開拓し、銀山最大の繁栄期の基礎を築いたことで高く評価されています。家康は長安の功績に感銘を受け、後に佐渡島（現在の新潟県沖）や伊豆（静岡県）の金鉱山など、幕府で最も貴金属が豊富な鉱山の多くで、監督者に昇進させました。

長安は69歳でこの世を去りましたが、その際には実際の遺骸の埋葬地というよりも記念碑というほどの立派な墓が、すでに複数建てられていました。しかし予期せぬことが起こります。長安の死後、彼は横領と謀反の嫌疑をかけられました。長安の7人の息子と部下は自害を余儀なくされ、財産すべてが押収されました。この告発は政治的な動機であった可能性があります。いずれにせよもはや大久保長安は、人が彼と関係があることを望む人物ではなくなり、彼の記念碑は取り壊され、あるいは見向きもされなくなりました。1794年になってようやく、石見銀山の人々は新しい墓石を立てることに賛成し、この墓石は現在も残っています。